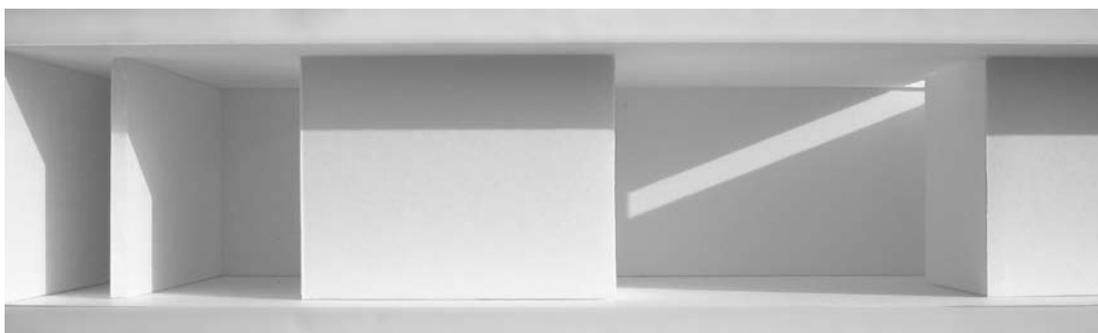




## ジャバラの家

東新住建株式会社経営研究所 落合正一



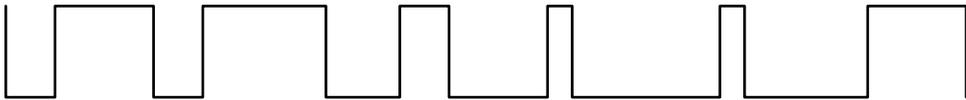
## ■ ジャバラが分けるもの、つなぐもの

空間に「ジャバラの壁」を置いてみる。この壁は何も囲まないため壁の表と裏の空間はつながっているにもかかわらず、表と裏で違う場所を作ることができる。表と裏は、距離によってゆるやかに区画されるのである。

本当は、ワンルームで片付けられるほど単身者の生活は単純ではない。友人を招き、食事を楽しむ場所も必要であるし、とことん自分の趣味に取り組む場所も必要である。

かといって、細切れにされた部屋は狭苦しく、望ましくない。

一続きの広大な空間に様々な場所が生まれる住宅を、ジャバラの壁から考えた。



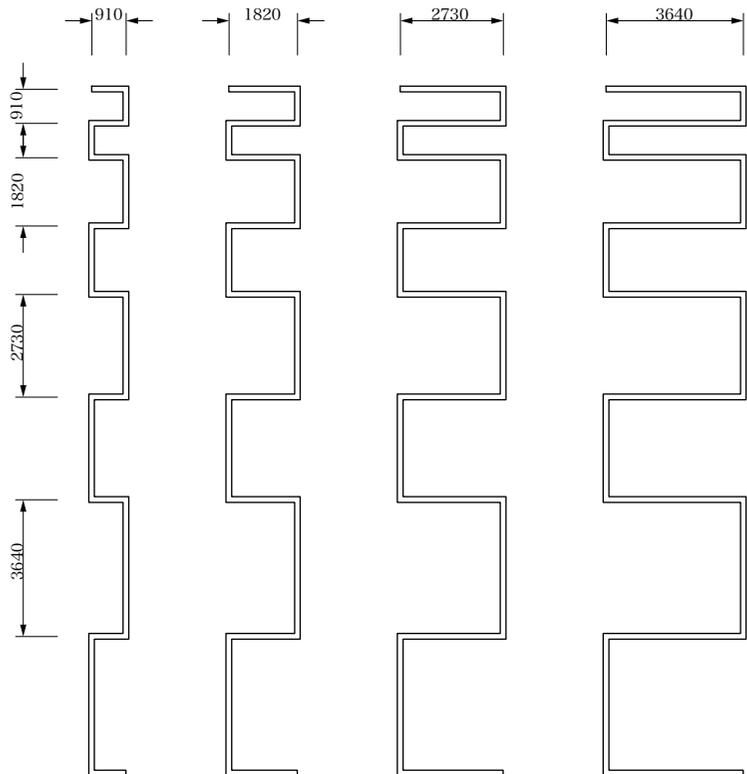
## ■ ルール

- 1.壁をひとふで書きのジャバラとする。
- 2.構造をツープайフォー工法とする。

ジャバラの大きさは振幅と波長で定義される。最小のジャバラでは0.91m×0.91mであり、最大のジャバラは3.64m×3.64mである。

これらのジャバラの組み合わせ方法はルールではないため、自由に行うことができる。

供給者にとってはジャバラのサイズによって価格を設定することで、理解しやすい価格体系とすることが可能である。

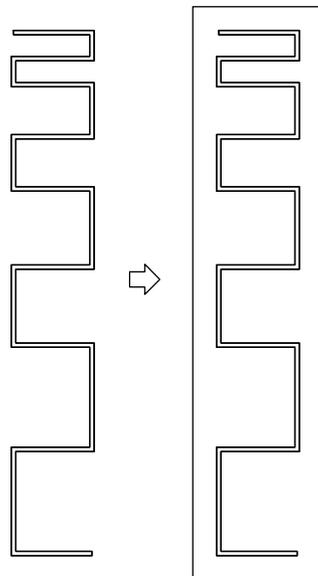
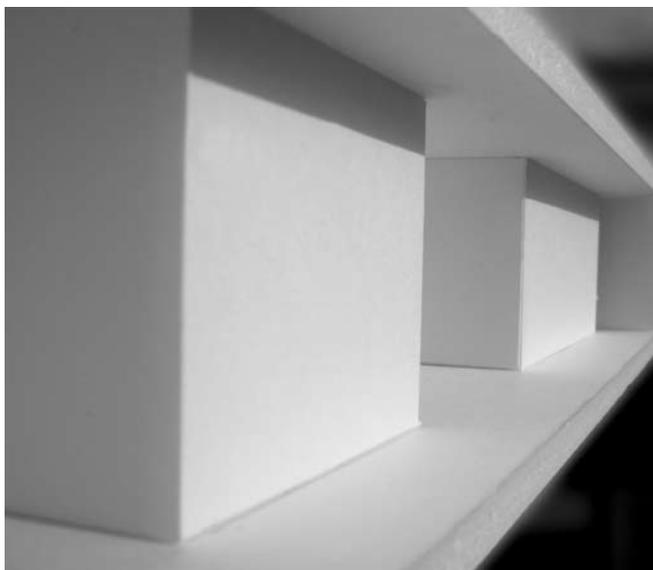


※これらのジャバラの一部を選択する。

### 3. ジャバラの周囲に外壁を作る。

ジャバラから0.91m～1.2m離れた位置に外壁を設定する。構造的な役割はジャバラの壁が担っているため、この外壁は構造的にフリーである。すなわち、全て窓とすることも可能である。

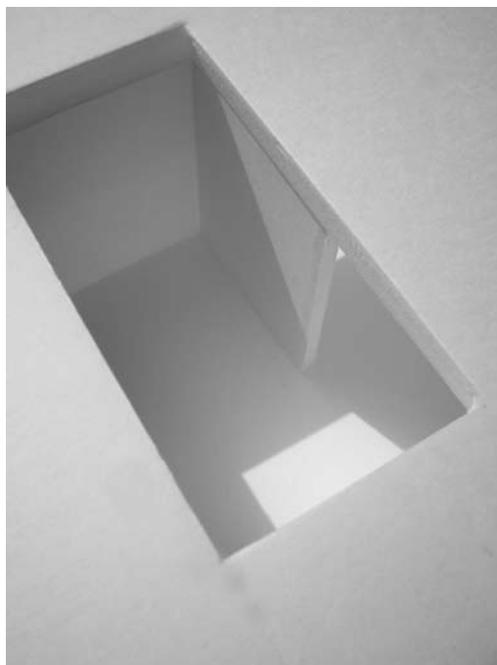
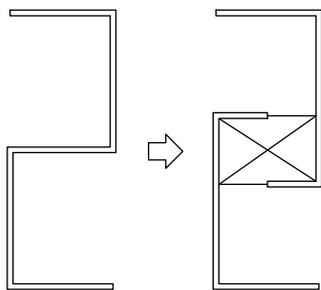
外壁とジャバラの間のできる空間は、ジャバラの空間をつなぐ廊下であり、外部とつながる縁側であり、ジャバラの空間そのものでもある。



### 4. ジャバラのつながりを崩さないように中庭を作る。

採光や通風を得るために中庭を設ける事が可能である。この際、ジャバラによる表と裏の構成を崩さないように、「ジャバラの一部としての外部空間」として設ける。

外部空間が挿入されることで、表と裏に新たな距離が生まれる。

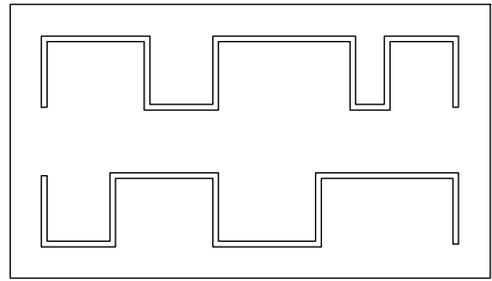


## 5.組み合わせる。

使用できるジャバラは1つだけではない。

複数のジャバラを用いる事で、ジャバラとジャバラに挟まれた場所において干渉を起こし、さらに多様な場が形成される。

また、1つのジャバラでは表と裏という2つの面が形成されたが、2つのジャバラを用いる場合は表、裏、間の3つの面が作られる。



## ■ ルールの展開

以上のルールを用いて、様々な条件にあわせ、展開することが可能である。

住宅を制限する条件のうち、大きなものは、「敷地」である。

### 1.敷地形状への対応

市場に流通している土地のほとんどは、多かれ少なかれ変形している。ジャバラの家は、シンプルなルールを駆使することで様々な形の土地に対応できる。

#### ○旗竿敷地

細分化され、販売されている土地には旗竿形式に分割されているものがある。このような土地には、L字型にジャバラを曲げることで対応可能である。

#### ○極小敷地

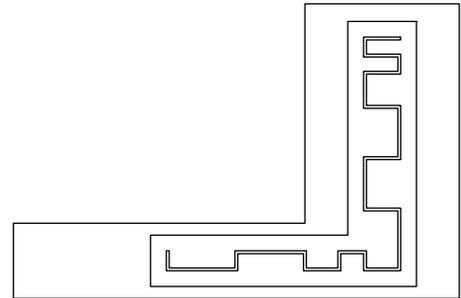
まれに極端に小さい土地が流通することがある。外部空間を取り込むことのできるジャバラの家は快適である。

#### ○変形敷地

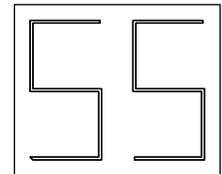
区画整理が行われていない場所では図のような変形敷地が珍しくない。ジャバラの振幅を操作することで、ジャバラの家の性質を変えることなく、対応することが可能である。

#### ○三角形

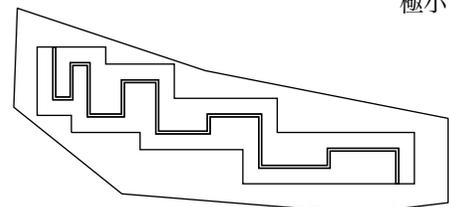
都市計画道路などによって土地が削られ、不整形な形状になっているものがある。このような土地には、ジャバラを細分化して配置することで対応が可能である。



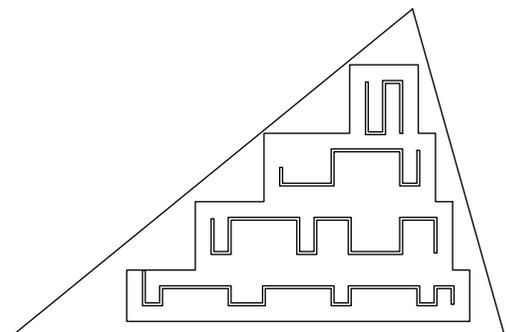
旗竿



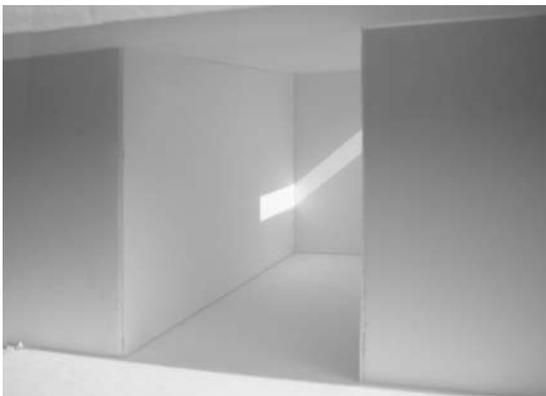
極小



変形



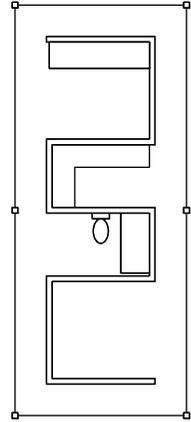
三角形



## 2.多様な单身への対応

### ○一人暮らしの場合

ジャバラが单身者の生活を二つに分ける。一方は友人を招くことができるパブリックな場所。もう一方は自分が何かに集中したり、リラックスするためのプライベートな場所。しかし、この2面は線引きして、それぞれの部屋に分けてしまうことはできない。スイッチを切り替えるみたいに生活を切り替える事はできないからだ。



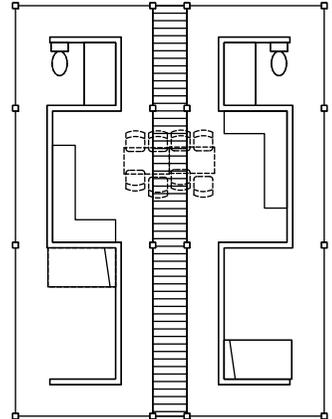
平面図s=1/200

### ○コラボレーションする二人の場合

家族でも、夫婦でも、友人でもない二人が居住することを想定した。普段は全く別の生活を送るが、時々コラボレーションを行う二人である。

全く同じジャバラの家を背中合わせに、デッキを介して接続する。最もパブリックな場所は、二本のジャバラによって作り出される。

普段はカーテンを閉めるなどしてそれぞれの生活を送るが、いざ打ち合わせを行う時にはパブリックな場所を持ち寄る。

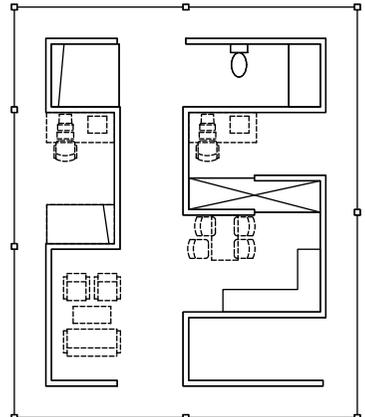


平面図s=1/200

### ○プライバシー重視の夫婦の場合

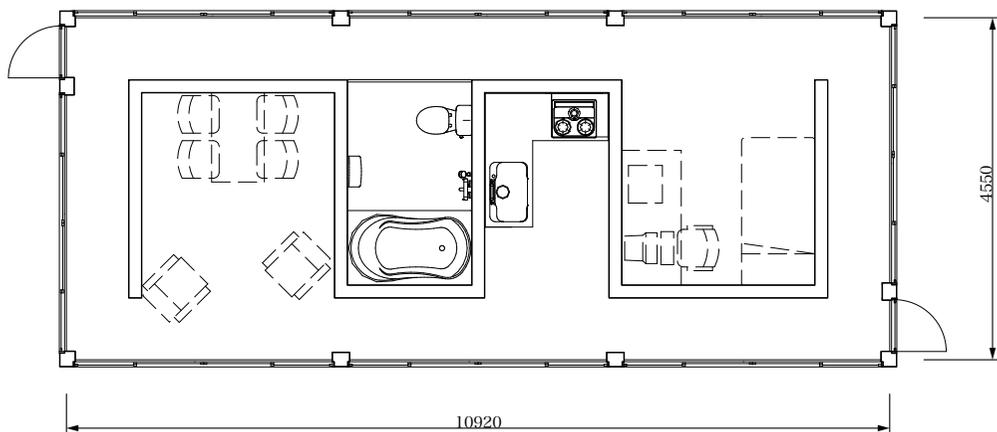
それぞれに仕事を持ち、自立した夫婦を自覚する二人を想定した。

壁で明確に領域を区切るのではなく、ゆるやかにそれぞれの場所を確保可能である。

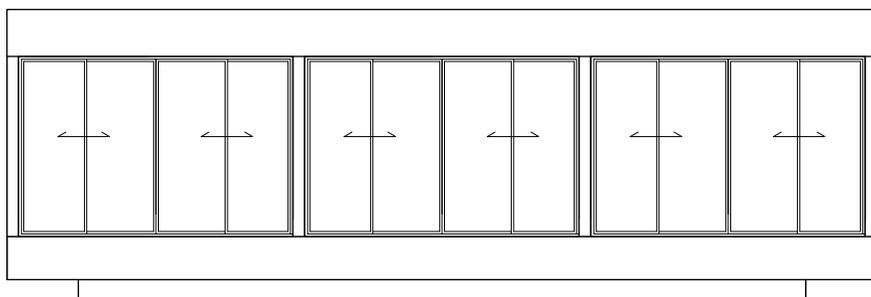


平面図s=1/200

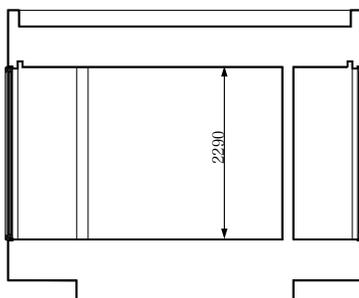
## ■具体例（一人暮らしの場合）



平面図 s=1/100



立面図 s=1/100



断面図 s=1/100

## ■まとめ

ジャバラの家は、単身世帯向けに作ったにもかかわらず、複数世帯が適度な距離を保ちつつ快適に生活していくモデルに展開する結果となった。空間の形式を作り出し、これを導きだすことができるルールを決定していく手法は、従来の製品住宅の開発過程を塗り替える可能性を持っていることが確認できた。

構造監修:松岡文蔵（東新住建株式会社設計部）

